

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072400312
法人名	株式会社 コスモ
事業所名	グループホーム こすも
所在地	福岡県筑後市高江72番地 (電話) 0942-51-1755

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 7月 3日
評価確定日	20年 7月 28日

【情報提供票より】 (平成20年 6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	14人
非常勤	3人
常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 6月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.66 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田医院・ひらき医院・小林外科・高山歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園の広がる穏やかな自然環境の中にある事業所は、広い敷地を活かし、ゆったりと落ち着いた2棟続きの平屋造りになっている。広い庭やその周囲の芝生は利用者の遊歩道になり、時には遠足気分でお弁当開きや、レクリエーション・体操の場になり、利用者の楽しみ・コミュニケーション・身体機能の低下予防に適している。周囲の景色が見渡せるホールには、ソファや回転式の椅子など程よく配置し、利用者の明るい会話や寛ぎなど自由な過ごし方の姿に、自然と心が和む。管理者・全職員は、常に利用者の立場に立ち、快適な生活支援を笑顔で実践するを合言葉に、地域に根ざした尊厳のあるケアサービスの質の向上に意欲と熱意を持ち取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の改善課題は、改善シートを全職員で作成し、新たに地域密着型の視点を盛り込んだ理念作成に全員で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者や計画作成担当者が全職員に項目毎に意見を聞き、協議・評価し管理者と計画作成担当者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、利用者の現状、サービスの実情、行事、交流研修、外部・自己評価の報告を行い、助言を貰っている。看取りについての勉強会の開催の意見・要望があり、委員・利用者家族・職員で勉強会を行うなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回、事業所便りを発行し利用者の生活状況を報告している。家族来訪時には暮らしぶり・行事案内・職員の交代などを報告し、緊急時には、その都度電話で連絡している。家族会を開催し、家族から意見が出しやすい雰囲気作りを心掛けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会や老人会に加入し公民館活動に参加、事業所便りを地域に配布している。また、近隣の小学生・中学生の体験学習や、短大生の実習・ボランティアを受け入れている。事業所の祭りにも地域から多数の参加があり、地元の人々との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し、住み慣れた地域でその人らしく「あるがままの生き方」を支えていく事業所独自の理念を全職員で作りに上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝夕の申し送りやミーティング時に、管理者や職員は理念を唱和し、共有している。新人研修・勉強会でも話し唱和している。また、言葉かけ・態度・記録等において理念の実践を図っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し公民館活動に参加、事業所便りを地域に配布している。また、近隣の小学生・中学生の体験学習や、短大生の実習・ボランティアを受け入れている。事業所の祭りにも地域から多数の参加があり、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者や計画作成担当者が全職員に項目毎に意見を聞き、集約し作成している。外部評価は、改善項目を改善計画シートに記入、全員で協議し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者の現状、サービスの実情、行事、交流研修、外部・自己評価の報告を行い、助言を貰っている。看取りについての勉強会の開催の意見・要望があり、委員・利用者家族・職員で勉強会を行うなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは密に行き来し、いろいろ相談を聞いて貰い話し合っている。事業所便りを持参している。また、介護相談員を受け入れ、事業所で利用者家族への介護教室を開くなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と一部の職員が制度に関して外部研修を受講し、利用時や家族会で説明している。また他の職員にも、伝達研修を行なっているが全職員の理解・周知には到っていない。	○	研修記録・テキスト等を整備し、必要時には全職員が活用・支援できるよう、勉強会の機会を活かし理解・周知を図ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、生活状況を報告している。また、家族の来訪時には、暮らしぶりや行事、職員の交代などを定期的に個々にあわせて報告している。緊急時には電話で連絡している。金銭管理については、毎月収支を明記し、領収書は原本を月1回の支払い時に手渡し押印を貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1度開催し、意見箱を設置している。家族から意見が出しやすい雰囲気作りを心掛けている。意見が出た場合は適切に対応している。第三者苦情相談窓口については、利用時に説明し玄関に掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望を聞き勤務し易いように工夫して、異動や離職を最小限に抑えている。やむを得ず代わる場合は、引継ぎ期間を充分に取っている。また、ユニット間の交流をし利用者馴染みの関係をつくり、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員募集・採用にあたっては年齢・性別では排除しない。配置・昇進・研修についても、その人の能力や適切な処遇を考慮している。管理者は、誰もが生き生きと勤務し、自己実現が出来る職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者や一部の職員は人権に関する研修を受講し、利用者や家族、職員間の人権尊重の大切さを日常的に話しているが、全職員の周知・理解には至っていない。人権教育・啓発活動のテキストや資料が保存されていない。</p>	○	<p>テキストや資料を整備し、全職員への周知・理解がなされるよう内部研修を行ってほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は研修機会がある度に職員に働きかけ、研修報告も月1回の勉強会時に設けている。学ぶ機会を積極的に推進して、個人的に働きながらのレベルアップを支援をしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協議会・市グループホーム部会に加入し、同業者との交流を日常的に図っている。同業者とは電話や相談、勉強会等で1ヶ月に1回程行き来している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、利用者や家族に見学を行ない体験して貰っている。また病院訪問・自宅訪問を行っている。即利用の場合は、事業所長が1週間程付き添い、職員も声かけを多くするなどして徐々に馴染んで貰うなど、家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、料理の下ごしらえや玉葱の干し方、早口言葉や諺を習い、その中で喜怒哀楽や優しさを学んでいる。丁寧な掃除方法を実践付きで教えて貰ったり、夜勤時には、励ましや労わりの言葉を貰うなど、共に支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者に声をかけ思いや意向の把握に努めている。トイレが近い時は外出傾向と察して見守り、利用者の更衣を手伝いながら、それとなく確認したり意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者等から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族関係者の希望を聞き、協力医の意見を参考に、全職員の気付きやアイデアを話し合い、本人主体の介護計画を作成している。家族了承のサイン・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に計画の見直し・評価を行なっている。利用者の状態変化時には、随時見直し家族に連絡している。現状に即した介護計画を作成し、家族来訪時に詳細を話している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院時には見舞いに行き、本人・家族・医療機関と連携を取り早期退院へ向け取り組んでいる。大学病院等の場合は、職員と家族が同伴し、定期的な通院の送迎は職員が行うなど、医療処置を受けながらの生活の継続の支援は、個々に合わせて柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、通院介助の方法、情報伝達方法について話し合い、それぞれ柔軟に支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を作成し、契約時に最大限の支援について説明し、本人・家族の希望や意向を確認し医師・職員で話し合っている。本人の意思を大切にしながら随時家族・医師・職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、排泄時の声かけや言葉遣いなどに配慮している。個人情報の取り扱い等について、外部・内部研修を受講し、ミーティング時に話し合っ職員意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調を見て、芝生やホールでの体操や散歩・買い物など好きな事をする班を幾つかに分け、その日にしたい事の支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる豆の皮むき・箸置き・テーブル拭き・後片付けを職員と一緒にし、同じものを同じテーブルで食べ、お皿を取りやすく動かししたり、自家菜園の話題や好きなメニューの話をし、食事を楽しいものになっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望・習慣に応じて入浴支援をしている。入浴拒否の人には、人を代え、時間を代え、タイミングを図り支援している。また同法人のデイサービスへ入浴に行ったり、近くの温泉に行くなど入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編物・裁縫・料理の下ごしらえ・掃除・玉葱の干し方・畑の水撒き・カラオケなど利用者が出来る事、出来そうな事を職員は一人ひとりの生活歴から把握し、役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・体調を見て近くの公園まで概ね毎日散歩をしている。月1回の外食、月1～2回のドライブ・個別の買い物など、戸外へ出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等に日中の施錠はない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りや付き添い歩きを行っている。夜間外出傾向の人には、明日にしましょうねと話し、暗い外を見せるなど適切に対応している。近所の人に、見守り・声かけ・連絡の依頼を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成、年2回消防署の協力を得て、地域の方も参加し避難訓練を実施している。非常食・飲料水・備品を整備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量・水分摂取量が全員記録され把握できている。献立は、管理栄養士が利用者の嗜好調査をし、好みに配慮しながら栄養バランスを工夫している。誕生日にはケーキをつける等習慣に応じた支援を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆとりのある共用空間には、一方に和室があり、テーブル、ソファ・椅子が程よく置かれ、仲間と一緒に居たい時、一人で居たい時など、思い思いに過ごせる居場所がある。明るさはスクリーンで調整し、季節の花や七夕飾り、利用者の絵を展示し、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染んだ家具・テレビ・椅子・時計・仏壇・家族写真・植木鉢・小物等を持ち込み、ドアには個々の好む動物や花をあしらひ、その人らしい雰囲気作りをし、居心地よく過ごせるようにしている。</p>		

※ は、重点項目。